
The realistic world

加持

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The realistic world

【Nコード】

N5707H

【作者名】

加持

【あらすじ】

ネットにダイブ出来ると話題になってから10年・・・

例のゲーム The realistic worldが届いた・・・

・例の事件から10年

あのゲームは無くなったかに思えた。 発売者は不明

購入方法不明

だが分かっていることはゲームが送りつけられてから
24時間以内に始めなければ・・・死

ゲームを誰かがクリアすれば全員戻れる
わかっているのはそれだけ・・・

そして俺の元にも届いた・・・

第0・0話 出発前に・・・

まずはこれを説明しなければ始まらないだろう。

すべての始まり・・・

The realistic world 説明せずとも分かる人も多いと思う・・・

10年前に発売された。

世界初いや今後出る可能性は無いだろう。そしてこれ以上危険なゲームは10年たった今でも無い。

ある人曰く、ゲームの中に入れるゲーム

ある人曰く、幻のゲーム？

ある人曰く、死のゲーム？

ある人曰く、ゲームする人を選ぶゲーム？

どれも確かな情報ではないが

10年前に無差別に1000人に送られた・・・送られたものはゲームを24時間以内に始めないと死ぬ。

分かっているのはこれだけだった。

そう、今は・・・まず10年前の出来事から始めよう

出発前に分かる範囲を書いておこうと思う。

もし今後参加することがあったら少しでも知っておいてほしい。

第0・5話 20年前のゲームの終わりそして・・・

確かに20数年前 The realistic worldは
実在した。

今でもネットで探せば話題はたくさん出てくるし当時はテレビでもやっていたほどだ。

今では放送もできないしネットですら動画を見れるかどうかかわからないが、ゲームが届きプレイ24時間以内にプレイしなかった者は皆パソコンの前で自殺している。

24時間動画に撮りながらThe realistic worldを放置した人もいたがやはり彼も急に暴れだして台所からナイフを取り出し死んだ。

まあ信じるも信じないのも自由さ20年ぐらい前の話だ。

The realistic worldをプレイした人達は、約1年半かかりこのゲームをクリアできたのでプレイしてた人全員、もちろん途中で死んだ人達（ゲーム中に死んだ人）も現実に戻る事ができた。しかし、ゲームをせずに死んだ人はもどってこない

当時The realistic worldをクリアしたパーティーはプレイしてた人達の間では英雄として尊敬し、また感謝された。

当時のクリアパーティーメンバーと最後のボスの逸話は色々なサイトにはのっているのを見た人も多いだろう。

一応補足しておく：実際にダイブした人にしかわからないが、このゲームには精神的な疲れや体力が存在し、現実と同じと思われる。

魔法もあるがこれは別の要素、魔力と推定されるがすべて数値化はされていない。

一番わかりやすいのは体力だ。腕が切られれば血が出る。もちろん体力が減ったと考えていいだろう。LVの上昇におおじて防御力も大きくなるらしくある程度なら攻撃を受けても平気なようだ。このゲームはすべてが恐ろしくリアルに再現されている。痛みは感じない、だが痺れなどはあるようだ。

前書きはそろそろ終わりにして20数年前の最後の戦いについて分かっている事だけ話そう。

パーティーメンバー5人 リーダー フェイ

斧使い バズ

魔法使い マイ

他2名 不明

最後に倒したボスはクリアした人達にしかわからないが、クリアしたことにより他のプレイしてたメンバーは現実に戻れたと考えられる。

20数年前のデータはこれだけだ。今回は前回と同じなのかどのようになら変わっているかは分からないが少しでも前回の情報を集めてみた。

後発 の人に少しでも情報が与えられればうれしいが現在私が知っている情報はこれだけだ。これから 至上最悪のゲームThe realistic worldを始めなければいけないと思うと私

の家族、知人に申し訳ないと思う。

だが、今は帰ってこれると信じよう。

第1話 始まりは突然に…

俺の名前は 藤島 浩太 普通の高校三年生 運動神経普通 勉
強 中の下 ルックス 普通

だるい事は苦手 めんどくさいことはしない 面倒なことには手
をださない。

好きなことは 授業中の昼寝とゲーム!!
どこにでもいる普通すぎる高校生だ。

「いつまで寝てるの 早くしないと遅刻するわよ!!」

下の部屋から母親（藤島 真衣）が声をかける。

まあ目覚ましを止めて二度寝していたからだ・・・時計を見ると
もう既に7：40分を過ぎている

家から学校まで15分程度だが、さすがにちよつとやばいな・・・

朝の挨拶を父（藤島 亮）と母に済ませていつもみたいに自転車
で高校に通うなんの変哲もないただの日常だった。

・・・The realistic worldというゲームが
届くまでは・・・

その日は曇り空だった。

珍しく少し早く起きて朝食を済ませていた。

「コウ 悪いが朝刊とってきてくれ」親父はコーヒーを飲みなが

ら新聞を読んでから会社に行くのが日課だ。

俺は朝刊をとり郵便受けの所にいくと朝刊の他に何やら包みが入っているではないか・・・

親父に朝刊を渡して包みを開けてみる・・・

中には残り23:32分とかかれたタイマーと一本のゲームが入っていた・・・

母はコーヒーを落とし、親父はかなり動揺していた。

俺は、20数年前の出来事についてまったく知らなかった。

これが The realistic world の改良版だとは・・・

中には一枚の紙が同封されていた。

藤島 浩太様へ

あなたはThe realistic worldへの参加が決定しました。なお24時間以内に参加しない場合は死にますのでご注意を・・・

これだけしか書いてないなかったが俺以上に父さんと母さんは動揺していた。

「こないたずら今時だれが信じるんだよ 珍しく早く起きたのに遅刻しちゃうから学校いつてくるよ。」と俺はのん気に笑い飛ばしていた。

「今日は 会社休むからな。 最後だと思って学校に行つて来い
学校が終わったら
すぐ家に帰つて来い」と少し声を大きく張り上げながら話した。

母さんは驚きを隠せていなかったが「行つてらっしゃい 待つて
るからね」と……

俺はその時……まだ事の大きさについて把握できていなかった
のだろう……

ただ何かが違つとは分かっていた。

自転車に乗り急いで学校に向かった……

もう今日は最悪だった。 変ないたずらに遭うし、面倒なことに地
元では有名な不良女……竜崎 アカネにからまれるし……

彼女にもゲームは届いていた……コウはもちろん知らないのだ
が……

「おい 何見てんだよ」

「みてねーよ お前も早くしないと遅刻するぞ」俺は関わりたくな
いからさっさと学校に向かった。

学校には間に合い今は授業中だが 俺はThe realisti
c world が気になってしかたなかったので悪ふざけだとは
思いつつも 携帯で調べてみた。

今までのゲームの中で最も危険で、ゲームをしなければ24時間後に死ぬ。パソコンに送られたソフトを起動しヘルメットの用なものを付ける。

脱出方法はゲームを開始した人の中で誰か一人でもクリアしたら終了

発売者や送り主不明

1日に最大で三時間ゲーム現実に戻ることができるらしい

参加者は八百人ほどだったようだ

調べ終えたが、こんな事があるわけ無い…だがここまで情報が有ることを考えると怖くなった。

「コウ 大丈夫か？ 顔色悪いぞ…保健室でもいったほうがいいぞ」とクラスメイトが心配してくる。

「ああ…ちよつと調子悪いから帰るわ…先生に伝えといてくれ」

俺はこれが最後の学校など考えてなかった。

親も何変ないたずらにだまされてるんだとまだ信じていた。

俺は 家に急いで帰ったら親はテレビを付けて臨時ニュースをみていた。

「大変です。 またあのゲーム The realistic worldが何者かによって出回ってます。前回と同じならば非常に危険なゲームです 情報をお持ちの方は *****まで至急連絡を…」

俺はだらけきった生活に変化を求めていた…だがこんな事を求めた

わけではない…

そして所詮ゲームだとこの時は楽観視していた。

父さんと母さんは俺が帰った事にやっと気づいたようだ。

そして父が話始めた。

「お前も気づいていると思うがこれは本当の事だ。父さんも母さんも信じて待ってるから必ずクリアして帰ってこい。」

「必ず帰ってきてね。ご馳走つくってまってるよ」と…俺はパソコンに電源を入れヘルメットのようなものをかぶりながら「必ず帰ってくるよ 行ってきます。」柄にもなく少し照れていた。

そして…ゲームが始まる…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5707h/>

The realistic world

2010年10月11日19時09分発行